

令和6年度 大田区立入新井第一小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

令和7年3月1日

児童数は毎年500名を超える中規模校で、通常学級15学級、特別支援学級6学級(知的3、難聴・言語3)の開校149年を迎える地域でも大変歴史ある学校である。研究活動を重視しており、大田区がすすめる新教科「おおたの未来づくり」の研究実践校や理科教育の拠点校、さらに令和6年度からは研究推進校として自立的な学習者を育てるための新たな教育課題研究に取り組んでいる。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策		学校関係者記入欄	
							評価	人数	コメント	
生涯学習目標を達成し、社会を創造的に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	STEAM教育等の推進や大田区独自教科のおおたの未来づくりについて、その実践やそれにつながる教育活動について、充実した取組ができたと回答する教員の割合	4: 95%以上	・大田区理科教育推進拠点校として、「JAXA宇宙学校」や「移動プラネタリウム」、「サイエンスショー」などの授業を行うことを通して、児童の科学に対する興味関心を高めることができた。 ・FLL東京大会の会場となり、学校として5チーム40名が出場した。東京予選を突破し、1チームが全国大会に出場することができた。 ・学校全体で「おおたの未来づくり」の学習に取り組んだ。タブレット端末の積極的な活用をしたり、地域の商店街等や外部企業との連携をしたりすることを通して、地域創生についてのアイデアを考えることができた。児童の表現力・発信力の更なる向上につなげることができた。	A	4	・私の年齢からは想像ができないような今の学習に驚いている。今後も分かりやすい指導をよろしく願いたい。 ・外部講師も多く子どもたちには新たな視点や学びが多くあると思う。 ・「おおたの未来づくり」については商店街等の具体的な事柄ではなくもっと大きな目で大田区を見てもらいたい。 ・もっと自己評価が高くても良いと思う。(そのためCをつけた)評価指標が教員数の回答割合なので仕方ないのか。
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 90%以上				
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 90%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3		3: 90%以上		
お世帯別ターゲットを2つとする国際社会を育成します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	SDGsの取組について理解し、特に地域との関連もある海洋についての探究的な学びを通して自ら解決する力が伸びたと考える高学年児童の割合	4: 80%以上	・5・6年生は教科担任制を行っており、外国語担当の担任とAETが授業を行っている。休み時間はAETが4階のイングリッシュルームで英語に親しむ「イングリッシュカフェ」を行っている。また、6年生の児童全員がESGを受け、リスニング等の到達度について確認している。これらを通して、児童の英語力やコミュニケーション能力の向上を図ることができた。 ・今年度のFLL大会のテーマは「海洋探査」であった。調べ学習やゲストティーチャーから教わったことを基に、環境問題の解決を図るようなアイデアについてまとめ、プレゼンテーションを行うことができた。問題解決的な学習をすすめる力が高まった。	A	4	・高学年には分かりやすい英語から学べるようにしてすすめていくと思うが、興味をもてる話も入れて育ててほしい。 ・教科担任制は先生方の負担も減らせる可能性もあり、他学級との比較もしやすいと思う。学年としてチームを組んでの情報交換もしやすくなると思う。 ・新しい校舎はいろいろなコミュニティを育てることができる道りになっている。有効に使ってほしい。 ・もっと自己評価が高くても良いと思う。(そのためCをつけた)
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 70%以上				
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 70%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3		3: 70%以上		
た一人の目基と礎り3とがな個性と能力を発揮する	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	一日30分以上の運動や早寝・早起き・朝ごはん等の健康的な生活を送っていると回答した児童の割合	2: 60%以上	・「取組指標①」について、100%の教員が「おおむねできた」と回答した。 ・5月の学校公開では、「生命尊重」をテーマに道徳地区公開講座を行った。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要である道徳の授業を、広く保護者や地域の方々に関心してご意見をいただき、これからの道徳の授業の改善・充実を図ることができた。今年度は、PTAとの共催で「歌う道徳講師」ことシンガーソングライターの太田靖之さんをお招きし、「学校ライブ」という名の道徳授業を通して、命の大切さについて改めて考えることができた。 ・朝の運動活動や空き教室での卓球やポッチャなどの活動を取り入れ、放課後子ども教室などでも体育館で全力で運動するなど、校庭がない中で体を動かす活動をすすんで行っている様子がみられる。また年5回の『いきいき貯金活動(生活リズム調査)』を通して早寝早起き朝ごはんの習慣化を図り、朝食未摂取者はほぼおらず、自ら健康の保持増進に取り組んでいる児童が多い。早寝は課題であるので、来年度も『いきいき貯金活動』を継続するとともに、専門家による『早寝早起き朝ごはん』の講話を実施する。	A	5	・各家庭で取り組む問題かなと思うが、ここまで先生が指導しているのかと思うと頭が下がる。今後共、よろしくお願いいたします。 ・普通の授業だけでなくさまざまな場面で学ぶことができることだと思う。 ・早寝早起きの習慣がついていない子どもへの指導がどのようになるかちょっと気になった。 ・個性を尊重することと自分勝手とのちがいをしっかりと教育してほしい。 ・「いきいき貯金」については積極的に家庭を巻き込んでほしい。
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 80%以上				
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 80%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3		3: 80%以上		
						1: 80%以上				
									1: 60%以上	

学 校 別 力 目 ・ 標 教 4 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	個別最適な学びをテーマ中心にした校内研究・研修を通して、授業改善が図られ概ね満足していると回答した教員の割合	4:80%以上	3	・校内研究では、「こどもを中心としたカリキュラム・マネジメント」「自由進度学習の可能性を探る」を研究テーマとして、個別最適な学びの在り方について探った。年6回の研究授業及び協議会を通して、これからの社会を生き抜く「自立した学習者」を育てていくためには、一斉指導に加えて、引き続きICTを活用しながら「環境を通して行う教育」も行っていく必要があることについて学んだ。本研究を通して、個別最適な学びや協働的な学びを視点とした授業改善を図ることができた。 ・専門性を生かした教科担任制、教員室のフリーアドレス化、時差勤務の実施、会議の持ち方の工夫や精選等、主任教諭及び主幹教諭による学校運営改善プロジェクトでの意見を反映しながら、児童の視点に立った業務改善を進めた。それを通して、児童と向き合う時間がさらに確保できるようになった。	A	4	・前の項目でも少し書いたが、小学校からこのような勉強をしていることに驚いている。 ・専門性をもつ先生と全体を見ることのバランスが大切と考える。 ・校内の掲示物用を見てもっと自己評価が高くてよい。(そのためCをつけた)
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3:70%以上			B		
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	3		2:60%以上			C	1	
						1:50%以上			D		
た 自 個 め 分 別 の 目 学 し 標 び く 5 を い き 援 い き ま す と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	いじめの未然防止、早期発見、早期対応が組織的にできていると回答する教員の割合	4:95%以上	4	・「取組指標②③」について、100%の教員が「おおむねできた」と回答した。 ・いじめについての校内研修の他にも、折に触れて管理職から指導を行った。それにより、教員の「学校いじめ防止基本方針」の理解を深めたり、いじめを察知する感度を高めたりすることができた。また、月1回、いじめ対策委員会を行い、児童の問題行動や対応策について組織的に検討することで、未然防止、早期発見、早期対応につながり、いじめについての重大事案は発生していない。今後も継続していききたい。 ・登校しぶりや問題行動のある児童については、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、子ども家庭支援センター、児童相談所との連携等が行われている。また、校内の居場所作りとしてステップルームも運営しており、数名の児童が通っている。ステップルームへの登校をきっかけに教室に戻れるようになった児童も多い。	A	4	・こどもは自分を中心と思っていることが考えられる。周りの友達とのつながりを児童とも話しの中から見当をつけて考えるなり、あるいは見当をつけて対応していくのもいいのではないか。 ・支援の必要のある児童に対してしっかりと対応することは当たり前である。将来その児童がどのように生活していくのか考えてほしい。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:90%以上			B	1	
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		2:85%以上			C		
						1:80%以上			D		
安 柔 個 人 軟 別 な で 目 教 創 標 育 造 6 環 境 な を 学 び ま す と 安 全 ・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	新校舎での生活について、きまりを守り、安心・安全で居心地のよい生活が送れていると回答した児童の割合	4:90%以上	4	・「取組指標①②」について、100%の教員が「おおむねできた」と回答した。 ・新校舎の各階のフリースペースには各学年の要望に応じて、協働的な学びが実現できる環境に必要な物品等を都事務と連携して準備することができた。また、児童が安心・安全に過ごせるように、新校舎の改善点については区に都度報告し、迅速に対応した。 ・安全指導日は朝の時間に設定し、全クラスが確実に実施している。また、避難訓練については、地震・火事・不審者等パターンを変え、時間帯についても様々なケースを想定して計画し、実施している。新校舎の避難経路や防災設備等の確認についても十分に行うことができた。	A	5	・上記でも思ったが、今の小学生はスマホや自分用のPCを持っていると思う。それが必要かどうかは分からないが、災害時等の時に情報を見て何をしていけば良いか等の判断材料になるのではないかな。 ・新校舎をどのように活用するかは一年目として大変重要なことである。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:80%以上			B		
						2:70%以上			C		
						1:60%以上			D		
学 地 学 校 校 域 校 別 を コ ・ 目 つ ミ 家 標 ユ 庭 7 リ ニ ・ ま テ 地 す イ 域 の 核 連 と 携 し ・ て 協 働 に よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	地域の人とかかわる学習や地域で催される活動(お祭りやイベントなど)は楽しく、自分も地域の一員であると感じていると回答した児童の割合	4:80%以上	3	・令和8年度からのコミュニティスクール実施に向けて、11月の学校公開日に、教員、PTA、地域の方々向けのコミュニティスクール導入説明会を行い、学校運営協議会が設置された学校の具体例を基に、「地域とともにある学校」の在り方について共通理解を図ることができた。 ・学校とPTAとの共催で、こどもまつりや道徳地区公開講座を実施し、児童の健全育成に努めた。また、4年生が盆踊り大会に参加するなど、地域行事の活性化に協力することができた。西の市等の見回りも学校とPTAが行うなど、児童の安全や健全育成のために連携することができた。	A	4	・自分が住んでいる地域での各行事に出ることで、どういった人が関わっているのか、また、どこでどのような準備をするのかを知ること、参加することや準備への協力等で自分も地域の一員であると思えるのではないかな。各自が地域の一員としてこどもとしての考えをもってもらえると高齢者や防犯等への思いがさらに高まることになると考えている。先生の業務がまた増えると思うがよろしく願いたい。町会としても協力していきたい。 ・今後のコミュニティスクールのあり方も議論していきたい。 ・歴史ある学校として以前から地域と有効な関係がある。これからも相乗効果が出るように協力したい。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3:70%以上			B	1	
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2:60%以上			C		
						1:60%以上			D		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す